



こいのぼりと桜が迎える中、拾石川を渡る電車。  
このように、名鉄蒲郡線の車窓からは、風光明媚な景色が一望できます。

**名鉄蒲郡線の行方**

しかしながら、乗降者数はここ数年横ばいの状態が続  
き、今でも運営は厳しい状況にあることに変わりはない  
ません。また、名鉄西尾・蒲郡線の中では、利用が少な  
い鎌谷駅と三河萩原駅が廃止されました。

これから超高齢化社会を迎えるにあたり、「地域の足」  
である名鉄蒲郡線の存続は必要です。市民の皆さん、ぜ  
ひ「赤い電車」を利用して、三河の海岸線を旅してみま  
せんか。

### 名鉄蒲郡線の行方

**「地域の足」確保へさまざまな試み**

この状況を打破するため、名鉄蒲郡線を運営する名古屋鉄道株式会社と、沿線にある西尾市、蒲郡市、吉良町、幡豆町の2市2町で「名鉄西尾・蒲郡線対策協議会（西尾駅～蒲郡駅）」を設立し、今後の利用を促進するための検討を行っています。協議会では、各市町で行うイベントの際、「公共交通機関」利用促進の広報PRに努めたり、サイクルトレイン（※現在は実施しておりません）を一部区間において試験運用するなど行ってきました。これらは、名古屋圏からの利用のほか、沿線で利用される方にも好評を博しました。

その他にも、行政側から要望したJR東海道本線とのアクセスは、ダイヤ改正などに対応しており、「地域の足」である名鉄蒲郡線の利用促進に向け、今後もさまざまな施策を実施していきます。



西浦温泉を背に、  
吉良方面へ向かう電車